

- 日 時：2020年3月22日（日）
- 場 所：立川教会
- 説教題：「ナルドの香油」
- 説教者：飯島 信 牧師
- 聖 書：旧約 サムエル記 9：27－10：1・6－7（旧 p441）  
新約 ヨハネによる福音書 12：1－8（新 p191）
- 讃美歌：149「わがたまたたえよ」567「ナルドの香油」

お早うございます。

普段は、ほとんどテレビを見る生活ではないのですが、新型コロナウイルスの問題が始まって以来、起きてはすぐにテレビのニュースを見て情報を得、新聞もやはりこの問題を取り上げている記事から目を通すようになりました。

新型コロナウイルスの問題で、全ての人々が共通して感じている不安は、特效薬もなく、感染経路が見えない、そして一体いつ終息するか分からないことへの不安であり、恐れです。この恐れは、私たちが今抱えている問題でもあります。

そうした時、私たちはどうしたら良いのでしょうか。

私は、心を落ち着けてこの問題に対処する方法が3点あると思います。

- ① 専門家会議が指摘している3つの感染リスクを避けること。
- ② 栄養を付け、適度に運動し、身体を健康に保つことによって免疫力を高めること。
- ③ 韓国・台湾など、感染を抑止する方向に向かっている国々からの情報を集めること。

以上です。

特に、この教会の牧師として、礼拝を守るために心がけていることがあります。

すでに、立川教会のホームページの「お知らせ」の欄に、3月14日（土）付け「第二信」として載せてありますが、感染リスクを避けるために、礼拝に出席する方は、

- ① 密閉空間を避けるために、窓の開け閉めによる換気に協力していただく。
- ② 人の密集を避けるために、隣りに座る人とは十分な間を空けて座る。
- ③ 近距離での会話や発声を避けるために、マスクを着用する。

これらのことへの理解と協力をお願いしました。

私は、牧師として、先週の木曜日にアメリカのカリフォルニア州で発令された全家庭への外出禁止令が、国や都から出される時はともかく、それ以外では、先ほどの感染リスクを避ける十全な注意を払いつつ、礼拝を守りたいと思っています。

ところで、集会を続けていると、思いがけないことが起こります。

先週の祈祷会のことです。

午前の祈祷会は、細川先生、Kさん、私と3人で守ったのですが、夜の祈祷会は、私一人とだけ思っていました。ところが、今年度初めて教会を訪れた若い教会員が参加したのです。大学3年生のNさんです。Nさんは、小中高校生の頃は、ジュニア礼拝のレギュラーメンバーでした。讃美歌も、「子ども讃美歌」が懐かしく、歌いたいと言うので、子ども讃美歌ら数曲を選び歌いました。聖書箇所も、箴言が終わっていたこともあり、マタイによる福音書6章から、「天に富を積む」ことや、「明日のことは明日自らが思い悩む」と言う御言葉からの学びをし、祈ったことでした。

神様が良しとされる限り、皆さんと共に主の日の礼拝や祈祷会が行えることを祈っています。

それでは、今日与えられた聖書の御言葉から、短く学びたいと思います。

「ナルドの香油」として良く知られている話です。

この話から、聖書は私たちに何を問い、何を教えようとしているのでしょうか。

話しの筋は、一人の女性が、高価なナルドの香油の入った壺を持って来て、イエス様に注いだ話です。

しかし、なぜ、この行為が問題となったのかです。

それは、この香油が、インドなどを原産地とする非常に高価な香油であったことが一つ、そして、12使徒の中の一人であるユダが、この女性が取った行動を「勿体ない」と非難し、それをイエス様がたしなめたことがもう一つの理由です。

ここで、私たちの目に鮮やかに浮かぶものがあります。

この女性が高価なナルドの香油に注いだ思いと、ユダが同じナルドの香油に注いだ思いとの決定的な違い、2人の間に横たわる深い断絶です。

この女性がナルドの香油に注いだ思いは、金銭の計算などをはるかに超えたもの、イエス様に対する心を注ぎ尽くしての感謝の気持でした。それは、この世の価値で推し量ることの出来ない、心の奥底から迸（ほとばし）り出て来る尽きないイエス様への感謝でした。

高価な香油を惜しげもなくイエス様に注いだこの女性の秘められた思いについて、福音書記者ヨハネは何も記していません。ただ、確かなことは、イエス様は、この女性の取った行動を良しとして受け入れられました。それは、間もなく十字架に架かる自分の葬りの準備であると。

一方のユダの思いは違います。

彼にとってのナルドの香油は、この女性の思いから切り離された、単に高価な香油に過ぎなかったのです。そして、この女性の行為は、その香油が無駄に使われている、意味の無い行為としか受け止めることが出来ませんでした。

先ほど、私は、この場面によって私たちの目に鮮やかに浮かぶものがあると申しました。  
鮮やかに浮かぶもの、それはこの女性とユダとの間を分かちつものであり、それなくしてはこの女性の行為を理解出来ないものです。

それは、主イエス・キリストへの感謝とそのお方を愛する心です。

しかも、己の罪を知るが故に、その罪を赦されることへの感謝と、そこから抑えても抑えることの出来ないそのお方への愛の心です。この女性は、高価なナルドの香油に自分の思いを託しました。感謝と愛する心をです。

そして、彼女の行為は、私たちにも教えます。

ユダのように、形だけみて、自分の価値基準で物事を判断をするのではなく、その行為を成させる心の声にしっかり耳を傾けることをです。

彼女の心には、罪赦され、神の国へと導かれて行く感謝と喜びがありました。

そして、罪を赦して下さったお方を心から愛おしく思う心がありました。

この時、ふと思うのです。

実は、ナルドの香油は、今、私たちにも与えられているのではないかと。

私たちは、すでに、今この時、ナルドの香油をそれぞれが手に持っているのです。

問われているのは、その香油を私たちがどのように用いるのかとすることです。

イエス様に受け入れられる使い方とは何かを考えます。

新型コロナウイルスの問題で最も弱くされている人々の一人にでも出来ることは何か。

主イエス・キリストを愛する心、そして、そのお方への感謝と喜びに満たされる心を持って、そのような人々に仕える者となることが問われている、私はそう思うのです。

ナルドの香油の話は、私たちにそのことを教えています。

祈りましょう。